

臨床研究

「前置癒着胎盤に対する術前非造影 MRA 所見と術中塞栓術の有用性についての後方視的研究」について

筑波大学附属病院放射線科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

前置癒着胎盤は基本的に帝王切開の後に子宮全摘術を行うことが多いですが、術中に大量出血を生じた場合、母子ともに命の危険にさらされます。近年、画像下治療の技術を応用してカテーテルを用いて術中出血を減少させる試みが行われていますが、確立した方法はありません。本院では 2009 年より術前の MRI で胎盤を栄養する動脈を同定し、術中にこれらを塞栓して術中出血量の減少に役立てる試みを行ってまいりました。本研究ではこれまでに同治療を行ってきた患者様の MRI や血管造影の画像や手術記録などの臨床情報を後見的にまとめて発表し、前置癒着胎盤の診療に役立てたいと考えています。

② 研究対象

2009 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに当院で前置癒着胎盤に対して術前の MRI、帝王切開、術中動脈塞栓術および子宮全摘術を受けた患者様

③ 研究期間：倫理委員会承認後～2020 年 9 月 30 日まで

④ 研究の方法

術前 MRA による子宮動脈及びその他の側副血行路の描出能を術中血管造影を基準として評価する。手術記録を参照して術中塞栓術の出血量に関わる因子について解析する。

⑤ 試料・情報の項目

術前 MRI・MRA 画像、術中血管造影画像、診療記録、術中記録、検査データ

⑥ 試料・情報管理について責任を有する者

森 健作 医学医療系 准教授

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：放射線科 担当 森 健作

電話・FAX：029-853-3205 （平日 9～16 時）